

# 平成27年度沖縄群島病害虫発生予報第12号(3月予報)

## I 3月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	40	40	30
平 年 並	40	30	40
低い(少ない)	20	30	30

(平成28年2月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	18.9	21.7	16.5	161.4	108.3

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2000・資料年数30年)

## II 3月の発生予報および防除上の注意事項

### 1 さとうきび

#### ○ カンシャワタアブラムシの防除対策

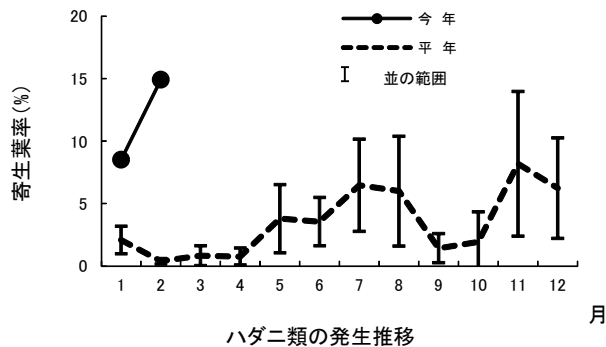
- a 2月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における寄生株率は1.3%で、一部地域で多発ほ場が見られた。
- b 秋に新植夏植ほ場で定着した成虫が翌春の発生の原因となるため、2～3月の薬剤防除を徹底する。
- c 天敵の密度が高い場合は、薬剤散布を控える。

### 2 温州みかん

#### (1) ハダニ類

発生程度 : 多  
予報の根拠

2月中旬の調査の結果、寄生葉率は14.9%(前年0%、平年0.4%)と平年より高く、一部ほ場で多発した。



<防除上注意すべき事項>

- a 冬～春の低密度時期における薬剤防除に努める。
- b 薬剤抵抗性を持つ個体が多いので、薬剤の選択に注意する。

### 3 タンカン

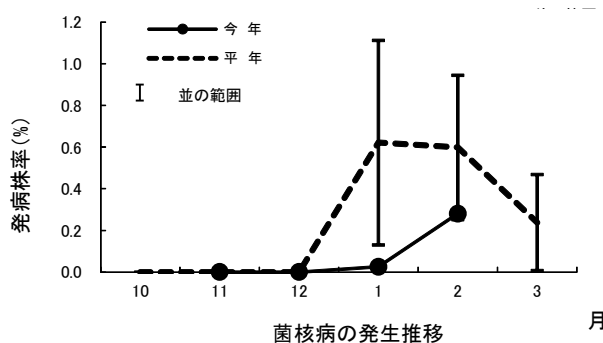
- ハダニ類の防除対策
  - a 2月中旬の調査の結果、寄生葉率は2.9%（前年0%、平年5.3%）と平年並であった。
  - b 冬～春の低密度時期における薬剤防除に努める。
  - c 薬剤抵抗性を持つ個体が多いので、薬剤の選択に注意する。

### 4 マンゴー

- チャノキイロアザミウマの防除対策
  - a 2月の黄色粘着トラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.1頭未満であった。
  - b 開花期以降は本種が増加する可能性があるので、早期防除に努める。
  - c 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
  - d 開花中のほ場では受粉昆虫に影響の少ない薬剤を選択する。着果が進んでいる場合には薬剤による防除を徹底する。
  - e 平成27年度病害虫発生予報第5号（平成27年7月27日付）コラム参照。

### 5 レタス

- (1) 菌核病  
発生程度 : 並  
予報の根拠  
2月中旬の調査の結果、発病株率0.3%（前年0.1%、平年0.6%）と平年並であった。



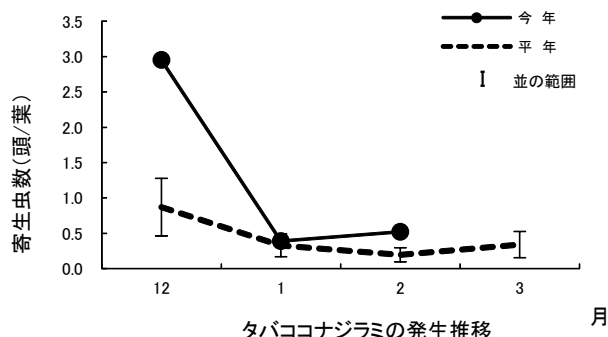
#### <防除上注意すべき事項>

- a 発病株は菌核を生じないうちに除去し、ビニール袋に入れるなどして密閉処理し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- b 例年発生時期に当たるので、薬剤による防除に努める。
- c 平成27年度病害虫発生予報第10号（平成27年12月24日付）コラム参照。

## 6 かぼちゃ

- (1) タバココナジラミ  
発生程度 : 多  
予報の根拠

2月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.5頭(前年0.1頭、平年0.2頭)と平年より多かった。



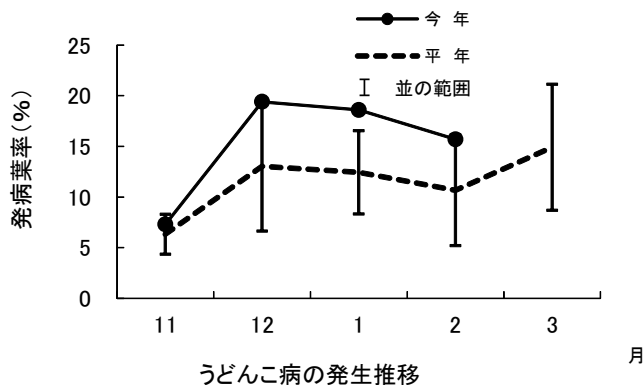
<防除上注意すべき事項>

- 多発すると白化症を引き起こし、生育不良となる場合がある。また、防除が困難になるので、葉裏を観察し早期防除に努める。
- 発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

## 7 きゅうり(施設)

- (1) うどんこ病  
発生程度 : 並  
予報の根拠

2月中旬の調査の結果、発病葉率は15.7%(前年1.4%、平年10.9%)と平年並で、発病度は8.6であった。



<防除上注意すべき事項>

老葉や病葉は発生源となるので、施設内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。

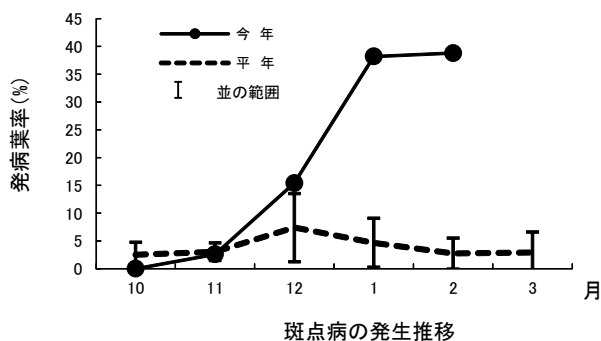
## 8 にかうり(施設)

### (1) 斑点病

発生程度 : 多

予報の根拠

2月下旬の調査結果、発病葉率は38.8%(前年5.6%、平年2.9%)と平年より高かった。



<防除上注意すべき事項>

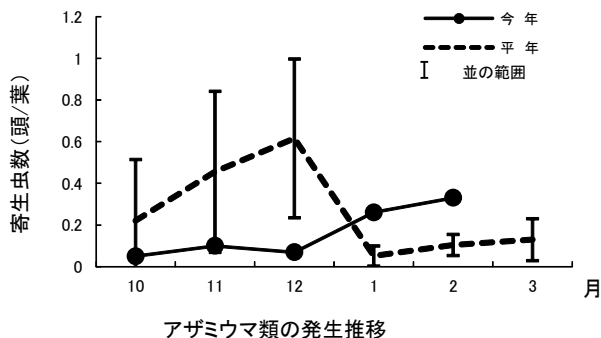
- 老葉や病葉は発生源になるので除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- 多湿にならないよう、施設内の換気に注意する。
- 中～下位葉をよく観察し、初期発見・初期防除に努める。
- 平成27年度病害虫発生予察注意報第3号(平成28年1月29年付)

### (2) アザミウマ類

発生程度 : 多

予報の根拠

2月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.3頭(前年0頭、平年0.1頭)と平年より多かった。



<防除上注意すべき事項>

- 施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除去する。
- 施設の出入口、天窓、側窓にはネット資材等を張り成虫の侵入を防ぐ。
- 摘心や摘葉後の残さは、本種の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして密封し、施設外に持ち出し処分する。
- 平成27年度病害虫発生予察注意報第4号(平成28年1月29年付)

### ○ うどんこ病の防除対策

- 2月下旬の調査結果、発病葉率は3.0%(前年2.2%、平年4.0%)と平年並であった。
- 発生源となる不要な老葉・下葉を除去し、透光通風をよくする。
- 除去した葉はほ場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分する。
- 薬剤防除は予防散布に重点をおく。

## 9 ピーマン

### ○うどんこ病の防除対策

- 2月中旬の調査の結果、発病葉率は9.6%（前年3.0%、平年2.6%）と平年より高かったが、一部施設で多発生が見られた。
- 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- 今後発生が増加すると考えられるので初期防除を徹底する。
- 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・早期防除に努める。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

## 10 トマト

### ○ うどんこ病の防除対策

- 2月中旬の調査の結果、発病葉率は2.5%（前年3.1%、平年2.0%）と平年並であったが、一部施設で多発生が見られた。
- 通風が悪いときに多発生しやすいので、老葉や病葉を除去し、透光通風を良くする。
- 今後、発生が増加すると考えられるので防除を徹底する。
- 多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期防除に努める。

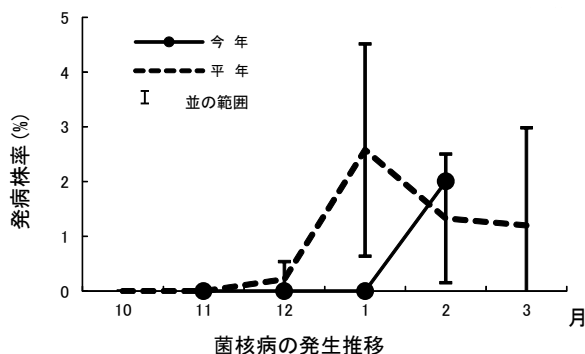
## 11 さやいんげん(平張)

### (1) 菌核病

発生程度 : 並

予報の根拠

2月中旬の調査の結果、発病株率2.0%（前年0%、平年1.3%）と並であった。



### <防除上注意すべき事項>

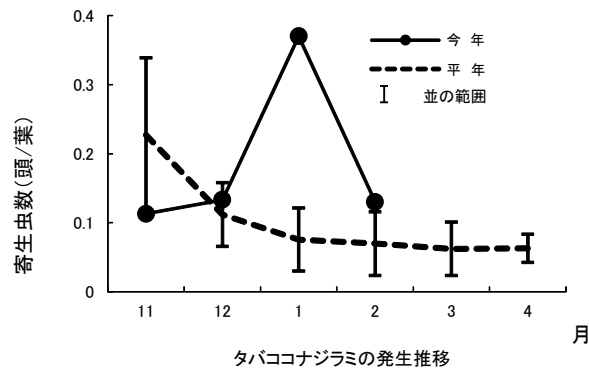
- 発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外へ持ち出し処分する。
- 多湿条件下で発生しやすいので、老葉病葉は取り除き透光通風を良くする。
- 薬剤防除に努める。
- 平成27年度病害虫発生予報第10号（平成27年12月24日付）コラム参照。

(2) タバココナジラミ

発生程度 : やや多

予報の根拠

2月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭(前年0.1頭未満、平年0.1頭未満)と平年よりやや多かった。



<防除上注意すべき事項>

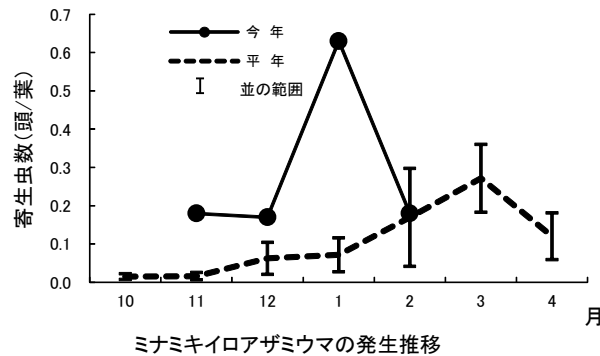
- ほ場周辺の雑草は発生源になるので除草を行う。
- 本種はさやの白化を引き起こすので、出入口の防虫ネットを二重にするなどして、施設内への侵入を防止する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。また、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬を使用する。

(3) ミナキイロアザミウマ

発生程度 : 並

予報の根拠

2月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.2頭(前年0.1頭未満、平年0.2頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

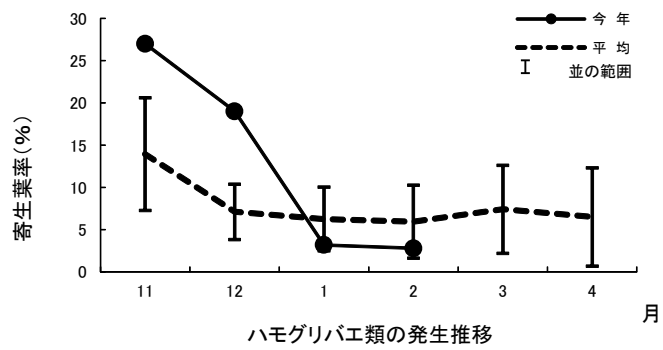
- 施設の出入口には二重カーテンなどを設置し、本種の侵入を防ぐ。
- 施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- 平成27年度病害虫発生予察注意報第4号(平成28年1月29日付)参照。

(4) ハモグリバエ類

発生程度 : 並

予報の根拠

2月中旬の調査の結果、寄生葉率は2.8%(前年11.2%、平年6.0%)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- 摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして、ほ場外に持ち出し処分する。
- 本種は薬剤抵抗性が発達し、また野外に多数の在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。